

# 津田中だより



第13号

枚方市立津田中学校  
令和8年3月24日  
発行 校長 田中 博

自他敬愛

## 修了式となりました。

### ～4月からの生活に向けての準備を～



本日、修了式を迎えました。この一年間は充実したものであったでしょうか。勉強のことや部活動のことなど、年度当初に立てた目標を達成することができたでしょうか。中学校での一年間は、大人の一年間と違い、大きく成長する時期です。体や心の成長はもちろんですが、勉強をはじめ様々な取組に対しての成長も意識と取り組み方により大きく変化が見られます。きっと皆さんも一年前とはずいぶん変化がみられていると思います。

明日からの春休みが終わると、皆さんはそれぞれ進級します。1年生は、2年生となり後輩を持ちます。2年生は最上級生となり、津田中学校のリーダーを努めることとなります。来年度にむけて新しい目標をしっかりと考え、心身ともに万全の準備をしてほしいと思います。

### 送ることば

厳しかった冬の寒さもやわらぎ、校庭の木々にも春の息吹が感じられる季節となりました。本日、この晴れやかな日に津田中学校を巣立たれる卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

《中略》

二年前、私たちが入学し、初めて先輩方を見た日のことを覚えています。まだ校舎にも慣れず、不安な気持ちでいっぱいだった私たちにとって、ひとつ上の学年であった先輩方の存在は、とても大きなものでした。まだ二年生でありながら、落ち着いた態度で学校生活を送る姿は、私たちには少し大人びて見え、「中学生とはこういうものなのだ」と感じさせてくれる存在でした。その姿は、私たち後輩にとって、いつも憧れであり、目標でした。

文化祭では、クラスが心をついに創り上げる姿が印象的でした。合唱では、力強く、そして思いのこもった歌声が体育館いっぱいに響き渡り、その真剣な姿勢に胸を打たれました。その姿から、みんなで一つのものを作り上げることの大切さを感じました。

体育祭では、どの競技にも全力で挑み、仲間のために声を枯らして応援する先輩方の姿がありました。勝敗以上に本気で取り組むことの大切さを、私たちは背中から教えていただきました。また、競技だけでなく、準備や片付けに率先して取り組む姿勢からは、最高学年としての責任と誇りを強く感じました。

部活動では、苦しい練習の中でも仲間と励まし合い、最後までやり抜く先輩方の姿がありました。大会での堂々とした姿はもちろん、思うようにいかないときでも前を向く姿勢は、私たち後輩に大きな勇気を与えてくださいました。

先輩方が築いてこられた津田中学校の伝統と温かな校風は、これからは私たちが受け継いでいきます。まだ未熟な私たちではありますが、先輩方を超えられるように、一步ずつ前へ進み、この学校をよりよいものにしていきたいと思っております。

卒業生の皆様、これから始まる新たな道には、期待とともに不安もあることでしょう。しかし、津田中学校で培われた努力する力、仲間を思う心、最後までやり抜く強さがあれば、どんな困難もきっと乗り越えていけると信じています。どうかこれからも、自信と誇りを胸に、それぞれの夢へ向かって大きく羽ばたいてください。

これまで津田中学校を力強く引っ張ってくださり、本当にありがとうございました。卒業生の皆様のご健康とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げ、在校生代表の送辞といたします。

在校生代表

## 第 79 回 卒業証書授与式

肌を刺すような冷たい空気が和らぎ、頬を伝う風にも春の訪れを感じる季節になりました。先程は校長先生をはじめ、来賓の皆様、そして、在校生の皆さんから、心温まるたくさんのお言葉をいただき、卒業生を代表して、心より感謝申し上げます。また、今日は私たち卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を行っていただき、誠にありがとうございます。私たちは、246名の仲間と共に切磋琢磨しながら今日を迎えることが出来ました。同じ時を過ごす中で得た、数え切れないほどの思い出と言葉にならないほどの思いが溢れるほどあります。そして今、ふと目を閉じるとたくさん思い出が蘇ってきます。

3年前の春、私たちは様々な思いを抱きながら津田中学校に足を踏み入れました。何もかもが初めてだった中学一年生。初めて会う友達や、授業の違いに緊張と不安で押しつぶされそうになりました。しかし、始業式や新入生歓迎オリエンテーションでは先輩たちが温かく迎え入れてくれて、私たちも安心して学校生活を始めることができました。初めての校外学習では、琵琶湖でカヤック体験をしたり、チームビルディングを行うなど、クラスで行動することを中心とした様々な活動で自然にクラスのみんなとの仲が深まりました。

部活動や行事、日常生活など様々な場面で教えてもらう側から教える側へと変わった中学2年生。先輩方から教わったことを少しでも一年生に伝えられるように、そして、一年生の良き手本となれるように心がける一年でした。特に部活動では、先輩と言う慣れない呼び方にも戸惑いながらも後輩を引っ張っていくという意識が芽生えました。津田中学校に入って二度目の文化祭では一年生の時とは違い、クラスの中でソプラノ、アルト、男声に分かれる三部合唱に挑戦しました。歌詞を覚えたり、声の大きさが違ったり、どうすれば綺麗に聞こえるのが苦戦することもありました。そんな時は先生方やパートリーダーを中心にみんなで話し合い、少しずつ工夫を加えていくと、まるでみんなの心を具現化したように初めはバラバラだった声も次第に一つになっていきました。発表当日、初めは緊張していたクラスのみんなも舞台に立つ頃にはやる気に満ち溢れ、どのクラスも素晴らしい発表だったと、たくさん先生方にほめていただくことができました。

そんな中学校生活もあっという間に過ぎ、気がつけばこの学校の最高学年になっていました。何気ない行動にも「最後」と言う文字が付き始めると、「最後だからこそ全力で取り組もう」「後悔のない選択をしよう」と言う気持ちが強くなりました。6月に行われた2泊3日の修学旅行。小学校の修学旅行が1泊2日だった私たちからすると2泊3日がすごく特別なものに見えました。1日目のニジゲンノモリではジップラインで空を駆け回ったり、大草原の中でお弁当を食べたり、仲がより深まった楽しい時間でした。2日目は金比羅山に登りました。いくら登っても頂上が見えない長さに苦戦しましたが、頂上に辿り着いた時の景色には達成感がありました。その日の夜、クラスミーティングを行いました。実施前は乗り気じゃなかったクラスメイトもみんなの真剣な話を聞いて、自分の本音を語ってくれました。意外な一面や将来の夢などクラスメイトの事をたくさん知ることができたすごく貴重な時間でした。3日目は大塚国際美術館へ行き、歴史深い様々な絵画を見学しました。帰り道のハイウェイオアシスでは家族の喜ぶ顔を思い浮かべながら友達と一緒に土産を選びました。修学旅行はお互いのことをたくさん知り、よりクラスの団結力を深めることのできた3日間でした。

中学生最後の学校行事である体育祭。団長、副団長を中心として全員で全力を尽くしました。開始前にみんなで円陣を組んだり、走る仲間に応援歌を歌ったり、運動場全体が熱い熱気に包まれ一つとなった一体感は、私たちの気持ちをより高まらせるものでした。順番を組み替え、バトンパスを教えあい、何度も何度も練習した学年対抗リレー。絶対に負けたくないと思えるほど全力で取り組むことができたリレーはとても印象深い思い出になりました。

全ての行事が終わり、受験シーズンになると一気にクラスの雰囲気が変わりました。受験生だということを改めて実感し、入試が近づくとつれて不安は募るばかりでしたが、同じ思いを抱く周りの友達がいてくれたからこそ乗り越えることができました。お互いに競い合い、助け合い、励まし合い、そんな日々も今となっては大切な思い出です。

先生方、長い間ご指導くださりありがとうございました。たくさん迷惑をかけてしまったけれど、その度に私たちを正しい方へと導いてくれました。勉強から進路まで何度も相談に乗ってくれたり、大切なことをたくさん教えてくれ、言葉では言い表せないほど感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、家族のみんなは一番近くで私たちを支えてくれました。受験と言う大きな壁にぶつかり、たくさん悩んで、立ち止まって、何度も諦めそうになったけれど、それでも前に進めたのは、家族みんなのおかげです。反抗してばかりで素直になれず、正直な気持ちをなかなか伝えることができなかったけど、卒業という過程を経て一人一人になった今日だからこそ心から感謝の気持ちを伝えたいです。今日まで私たちを支えてくれて、ここまで育ててくれて、本当にありがとうございました。そして、これからも一歩ずつ成長していく私たちの姿を一番近くで見てください。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、先生方、ご来賓の皆様、そして保護者の皆様、今まで本当にお世話になりました。この3年間は学校生活や部活動、委員会活動を通して様々な仲間と出会い、共に成長することのできた貴重な時間でした。仲間と一緒に他愛のない会話で笑い合った日々を思い出すと、とても名残惜しく感じますが、今までの思い出を噛み締めながら私たちは今日、津田中学校を卒業します。この先進む道が一人一人違っていても、3年間で学んだことを活かして、あきらめず、最後まで走り続けたいと思います。津田中学校がこれからも素晴らしい歴史を刻んで行かれることを願って、これを答辞とさせていただきます。

令和8年3月13日 卒業生代表

